# 板橋 地区

## ふたつの碑、ふたつの明治

令和3年3月、板橋区内に残る明治時代の石碑2基が新しく文化財として登録されました。板橋地区にある【招魂之碑(明治35年陸軍板橋火薬製造所爆発事故)】❷と、赤塚地区にある【梅樹堂師匠大野時長の碑】❸です。

明治5年(1872)、徳丸北野神社の境内に【梅樹堂師匠大野時長の碑】が建てられました。幕末、当社で開かれていた寺子屋【梅樹堂】の師匠大野時長を顕彰したもので、発起人として徳丸村、徳丸組村など近隣の村に暮らす生徒たちの名前が記されています。梅樹堂は、明治10年に紅梅小学校が設立されたことに伴って廃校となりますが、大野時長の息子時信が紅梅小の教員となることで、江戸時代末での寺子屋における多様な学びは近代の公立学校へと引き継がれていきました。明治初年の地域における教育のネットワークが石碑に刻まれています。

明治9年、旧加賀藩下屋敷の跡地に板橋火薬製造所が建設され、以来終戦まで国内の火薬の生産や研究の中心地でした。また、この後工業地域として発達していく【工都板橋】の源源ともなりました。しかし火薬の製造作業は、常に危険と隣り合わせです。碑の建立のきっかけとなった明治35年の爆発事故では技手・工員10名が亡くなっています。彼らの多くは板橋町に暮らす労働者でした。背面の碑文から火薬工場に勤める工員の切実な思いを読み取ることができます。

明治時代も農村のつながりが大切にされた赤塚地区と、工場という近代の新しい空間が生まれた板橋地区。ふたつの碑から、明治期の板橋区の姿を垣間見ることができます。

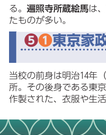
### ❶子易神社
板橋2-19

旧金井窪村の鎮守。富士浅間神社の分霊を勧請したとされ、また安産・子育ての神様としても知られている。**子易神社子安観音坐像**は、明和2年(1765)の作で、元々は明治期に庚申堂となった別当寺、福正寺に祀られていた。毎年10月16日にのみ公開。**子易神社文書**は、江戸から大正期にかけてのもので、当地で行われていた祭礼やその費用などを記録した貴重な史料である。

### ❶東上鉄道記念碑
板橋2-4

当碑は、大正8年(1919)の建立で、同3年に池袋～田面沢(現：川越市内)間で開業した東上鉄道(現：東武鉄道東上線)建設の経緯が記され、創立に尽力した蓮根の内田三左衛門の功績を顕彰したもの。当初は上板橋駅南口に建てられたものが、移転を重ねて現在地へと移されている。

### ❷東光寺
板橋4-13



室町期の創建とされる浄土宗寺院。境内にある青面金剛像を彫った**東光寺寛文二年庚申塔**(1662)と、平尾一里塚にあったという**東光寺石造地蔵群隆坐像**の台座には、それぞれを奉納した宿場の人びとや加賀藩下屋敷に詰めた足軽などの名が刻まれます。また、**宇喜多秀家供養塔**は、慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いに敗れ、八丈島へと流された宇喜多秀家の子孫が、明治2年(1869)になって罪を許され、翌年、縁故にあった加賀前田家の江戸下屋敷跡に移された際に建立したもの。

### ❸観明寺
板橋3-25

室町期の創建とされる真言宗寺院。入口にある**観明寺寛文元年庚申塔**(1661)は、青面金剛像が刻まれた区内最古のもの。本尊の**観明寺聖観音立像**は、12世紀頃の作とされ、区内最古の仏像のうちの一つ。**観明寺不動三尊像**は延宝2年(1674)の作で、明治6年(1873)に当寺に成田山の不動を勧請して縁日が開かれるようになると、出世不動として周辺の信仰を集めた。

### ❹加賀前田家下屋敷跡
加賀1-8　区立加賀公園

延宝2年(1679)、加賀藩四代藩主前田綱紀が幕府より屋敷地を拝領したのがその始まりで、最終的には約21万8千坪の広大な下屋敷となった。平尾郡とも呼ばれ、石神井川を利用した池泉回遊式庭園が広がり、藩主と家臣の「別荘」として利用された。明治期には屋敷地の一部が陸軍板橋火薬製造所(後の東京第二陸軍造兵廠板橋製造所)となった。下屋敷の範囲は加賀1・2丁目、板橋1・3・4丁目などに及ぶが、史跡として の登録範囲は下屋敷にあった旗山が残る区立加賀公園となっている。

### ❺陸軍板橋火薬製造所跡
加賀1-7・8

加賀一丁目に位置する**陸軍板橋火薬製造所跡**は、平成29年度に国の史跡に指定されました。加賀地域一帯は、江戸時代、約21万8千坪の敷地をもつ加賀前田家下屋敷が所在していたが、明治初年、下屋敷の跡地の一部に官営の火薬製造所が設置され、終戦時まで稼働していた。現在は、火薬の試験を行った発射場などの実験施設、燃焼実験室や物理試験室などの研究施設、常温貯蔵庫などの火薬の貯蔵施設、爆発製造実験室の製造施設など、火薬製造の一連の工程を理解できる遺構が残っている。今後、板橋区は史跡全体を史跡公園として整備する予定である。現在は史跡の一部(区立加賀公園部分)のみ見学できる。

### ❻板谷公園 付銘板
板橋4-55

前田家下屋敷の一部は明治期に民間に払い下げられ、そのうちの板橋3・4丁目は昭和10年(1935)に板谷造船株式会社が住宅地として分譲を行った。当公園は大規模宅地造成にともなう公園地の確保が目的で設けられ、板谷造船株式会社より敷地が無償提供され、東京市が施工して同12年に東京市板谷公園として誕生した。現存する区内最古の公園であり、当時の銘板が残る。

### ❼庄庸機圧輪記念碑
加賀1-10　区立加賀西公園

板橋火薬製造所の創設に関わった澤太郎左衛門の功績を称え、大正11年(1922)に建てられた。黒色火薬の製造に使用されたベルギー製の圧縮機が利用され記念碑となっている。日本の近代工業発展の礎となった産業遺産の一つ。

### ❽招魂之碑(明治35年陸軍板橋火薬製造所爆発事故)
加賀1-10　区立加賀西公園

明治35年(1902)、板橋火薬製造所で発生した爆発事故で亡くなった技手や職工を慰霊するために、製造所者によって建立された石碑。爆発の原因となった無煙火薬は、国内で初めて機械で生産された最新の火薬だったが、安定性に問題があり、ただたび爆発事故が発生していた。

### ❹遍照寺
仲宿40

江戸期には天台宗であったが、現在は真言宗寺院。**遍照寺「遍照寺参詣図」絵馬**は、明治期に千代本楼が奉納した絵馬で、当地の絵馬師宛主一の作。太夫行列が描かれるなど吉原の風俗がうかがわれる。**遍照寺所蔵絵馬**は、当寺の境内に馬つなぎ場があったことから馬を描いたものが多い。

### ❺❶東京家政大学
加賀1-18

当校の前身は明治14年(1881)に渡辺辰五郎が本郷で設立した和洋裁縫伝習所。その後移ろめる東京裁縫女学校と東京女子専門学校の教育課程において作製された、衣服や生活道具類の三分の一の雛型である**渡辺学園裁縫雛形コレクション**は、国重要有形民俗文化財に指定(大学博物館所蔵、見学可)。構内に残る**旧東京第二陸軍造兵廠建物群**は、昭和21年(1946)に渡辺学園が板橋に移転してきた当時より、授業などで使われてきた造兵廠時代の貴重なレンガ造りの建物である。

### ❽❶板橋町役場跡地
仲宿44　区立仲宿ふれあい広場

明治22年(1889)の町村制施行により板橋町が成立。町役場は当初江戸良役場に置かれたが、同30年に当地に移転。昭和7年(1932)10月の板橋区の成立まで板橋町の行政を担った。

### ❻文殊院
仲宿28

江戸初期の創建とされる真言宗寺院。本尊の**文殊院文殊菩薩坐像**(見学不可)は、寛文年間(17世紀後半)の作とされる。また、板橋宿本陣飯田家の菩提寺でもあることから、墓地には飯田家の出身で加賀藩前田家の祐仙院に仕え、寛政9年(1797)に乙酉でくなった、飯田静の業績を記す**飯田静の碑**がある。

### ❾板橋
本町28

石神井川に架かる橋で、一説には板橋の地名の起こりとされる。江戸期には橋を境として、北側が上宿、南側が中宿となっていた。中宿には本陣・貫目改所などが置かれ、宿場の機能が集中していた。当時の橋は、長さが9間(約16m)、幅3間(約5.5m)。昭和47年(1972)に現在の橋となった。

### ❿氷川町氷川神社
氷川町21

旧下板橋宿の鎮守で、中世の豊島左衛門尉経泰が大宮氷川神社の分霊を勧請。**氷川町氷川神社富士塚**は、富士講中により富士山を模して造られたミニチュア富士山で、麓から山頂にかけて登山道を模した道や石碑を建てた礼拝所が配されている。

### ⓫❷日曜寺
大和町42

享保年間(18世紀前半)に、徳川八代将軍吉宗の次男である田安宗武が帰依した日曜寺。本尊の愛染明王は藍染に通じることから、江戸・東京や周辺の染色業者による信仰を集めた。山門に掛けられた**日曜寺扁額**は、宗武が子松平定信の自筆書簡としたもので、文化12年(1815)に奉納された。境内には江戸幕府連歌宗匠であった**版島周諭髪埋納の碑**や天保10年(1839)作製の手水鉢をはじめとする**日曜寺愛染講奉納石造物・奉納額**がある。

### ⓫❸智清寺
大和町37

室町期に創建された浄土宗寺院。江戸期には将軍家から5石の寺領が与えられた。**智清寺文書**は江戸期以降の寺院経営や明治期の朱印地払下げに関する史料群。境内に残る**中用水道橋石橋**は、正徳4年(1714)に造られ、山門前を流れていた石神井川を分水した中用水に架けられていた。

### ❾旧養育院長渋沢栄一銅像
栄町35

当像は、日本の福祉・医療の原点であり、当分野をリードしてきた「養育院」と、運営の中心的役割を果たした院長渋沢栄一による社会福祉事業への関与を明らかとする歴史資料で、大正13年(1924)に建てられた。

### ⓬❹切石
本町18

江戸期に旗本近藤登之助の拠屋敷にあった榎が、後に「縁切り」に結びつき、幅広い信仰を集めたもので、男女の悪縁を切ることや断酒などが祈願された。中山道を経由し、朝廷から幕府へ降嫁した和宮などの姫君たちは、縁切榎を迂回して、愛染通りから宿場へと入った。近代になると、悪縁を断つ力、良縁を結ぶものに転じ信仰が広まった。絵馬師東左一の作、**縁切榎祝星風景図絵馬**(郷土資料館管理)がある。

### ⓭相荷台遺跡
稲荷台23

昭和14年に白鬚高保・江坂輝彌氏らにより発掘調査が実施され、縄文時代早期照葉樹文系土器が出土し、この資料が「稲荷台式」の標識資料となる。平成19年に氏に遺物が寄贈され、**稲荷台遺跡出土(江坂輝彌氏記念)コレクション**として区登録有形文化財となる(郷土資料館管理)。加賀小学校校門脇に石碑が建つ。

### ❷西光院
南町31

江戸初期の創建とされる真言宗寺院。参道にある**西光院のスダジイ**は樹齢400年ともいわれる古木で、周辺のランドマークとなっている。

### ❸空襲犠牲者供養の地蔵
大山金井町16

昭和20年(1945)4月13日の空襲によって、区内の板橋から志村にかけての地域では、死者232名、負傷者177名、約45,000名もの電災者が出ている。当地域は当地にある防空壕でむごくなった、子どもを含む9名の供養と但久平和を願って、同25年に建てられたもの。

### ❿熊野町熊野神社
熊野町11-2

応永年間(1394-1428)に庭田主水正氏兼が熊野権現を勧請したのに始まると伝える旧中丸村の鎮守。**熊野町熊野神社文書**は、神職として昭和7年(1932)から当社に奉職した中島清治郎氏が勤務していた内務省の国家神道関連のものや、昭和7年以降の当社関連のものからなり、明治時代の国家神道や戦中・戦後の地域の歴史を明らかにするうえで貴重である。

### ⓫板五米店
仲宿40

大正3年(1914)に建てられ、近世町家に洋風の意匠が加わった建造物。かつては米穀小売業を営んでいた。中山道の街道に面して建つ町家の系譜をひく土蔵造り家。土蔵と住居から成り、1階の店舗部分は寄棟造桟瓦葺の屋根、黒漆喰塗りの土蔵造り。正面2階の軒は「せがい造」。煉瓦の要壁を2階軒高まで建ちあげている点が特徴。

# 上板橋 地区

### ⓭上板橋小学校
(見学不可)
東山町47

明治9年(1876)に区内で三番目に創立した上板橋学校を源源とし、同3年に現在地へと移転した。**上板橋小学校校史資料**は、同9年の「学校設立願書」をはじめとして、主に明治期から昭和戦中期にかけての書類・日誌や寄贈資料などがふくる。教育史や地域史を研究するうえで貴重な資料となっている。

### ⓮❸安養院
東新町2-30

鎌倉時代の執権北条時頼によって創建されたという真言宗寺院。鐘楼堂にある**安養院鐘楼**は、元禄2年(1689)に鋳造され、享和2年(1802)に再鋳されたもので、国の重要美術品。江戸初期の作とされる**安養院紅頗梨色阿彌陀如来坐像**は、孔雀尾に坐る宝冠阿彌陀像で前立ち本尊として安置される。**安養院釈迦四面像**は、武田信玄の守本尊とされ、紀州徳川家から当院へと寄進された。厨子の中には厳山が作られ、四面の扉や天井部には狩野派による作画が見られる。**安養院文書**は、江戸期から昭和期にかけての寺院経営や周辺の農民宗寺院の動向を伝える文書群。**安養院庫裡**は、明治34年(1901)に東京市麹町区に建てられた旧前橋海松平家、伯爵松平基別の本邸を、昭和4年(1929)に当院が買取り移築したもので、近代和風建築の指標となりうる建築物。境内には区内最大の**安養院のカヤ**がある。

### ⓯❶❷南常盤台天祖神社
南常盤台2-4

川越往還の上板橋宿を中心とする鎮守で、明治5年(1872)以前は神明宮と称していた。**南常盤台・天祖神社所蔵資料**は、明治後期から昭和期にかけての神社の動向や、神社と地域との関係などを示した文書群と、幕末期から明治期にかけての神話などを題材とした絵馬からなり、地域の歴史や風俗を知ることができる貴重な資料である。**祭り囃子(神田囃子)**が、正月や例祭に奉納される。

### ⓰常盤台・斯波家住宅
(内部見学不可)
常盤台2-13

常盤台住宅は、昭和11年(1936)から同14年にかけて、東武鉄道が分譲した戦前期最後の「田園都市」である。斯波家住宅は、同13年に建築された近代和風建築で、当時の文化住宅を語るうえでの好資料。

### ⓱帝都幼稚園 付門柱
(内部見学不可)
常盤台1-6

帝都幼稚園は、昭和11年(1936)に東京府豊島師範学校敷論で音楽家の山本正夫が設立した帝都学園女学校が母体。同21年に校舎の約2/3を焼失したが、それを免れた設立当初の建物を現在地に移築し、帝都幼稚園として再出発。当幼稚園舎は常盤台住宅地の歴史を語るうえでの好資料。正面にある同32年の園生が寄贈した門柱は、当時南常盤台に居住していた童画家武井武雄の設計。

### ⓲上板橋宿副戸長碑
弥生町17

明治6年(1873)に東京府は、明治政府が全国を大区小区に編成したのを承けて、小区に戸長を一人、小区を構成する各村に副戸長を一人ずつ置いて行政実務にあたらせた。この時、上板橋宿(村)の副戸長に任命されたのが榎本利弓で、当時は大正14年(1925)10月に孫の弥右衛門によって祖父利八を顕彰するために建てられた。近代的行政制度の黎明期の様子を伝える資料。

### ⓳向原八雲神社
向原2-4

向原に鎮座し、江戸末期には創建されていたと推定される。当社が所蔵する

**向原八雲神社信仰関係資料**は、富士山・大山への登拝講にかかわる石造物に加え、御三嶋をはじめとする富士講関係資料、八雲神社における祭祀や講じへの登拝講に関する文書群からなる。中でも相州大山への寄納物であり、当地から担いで持って行く木太刀と御神酒やは、区内では当社での為講認まることができる貴重な資料である。

### ❹西光寺
大谷口2-8

江戸初期に創建された観音堂を始まりとする真言宗寺院。境内に安置されたし**ろかさ地蔵**は、室町期の作とされ、区内最古の石地蔵。地蔵が大谷口の農家のしろかさを手伝ったという昔話が伝わる。

# 志村 地区

### ⓪⑳宮本町稲荷神社
宮本町54

旧志村清水町の鎮守で、かつては泉町の出井の泉（出井の泉公園）のほとりに所在し、現在地へと遷ったという。境内にある資料館には、清水地域で使われていた農具や民具が保存・展示され、**清水資料館収蔵品一括**として文化財となっている。**稲荷神社のイチョウ**は、雨乞いの時の御神水となった。

### ⓪⑧南蔵院
蓮沼町48

江戸初期には創建されていたと伝わる真言宗寺院。江戸期に坂下一丁目から現在地へと移転したとされる。境内にある**南蔵院の庚申地蔵**は、承応3年(1654)に蓮沼村の庚申待講により造られた丸彫り地蔵。**南蔵院石造出羽三山供養塔**は、安永6年(1777)と文化元年(1804)造立の、計3基の供養塔からなり、台座に蓮沼村・前野村・小豆沢村の出羽三山講の講員70名の姓名と羽黒山から授与された房号が刻まれている。

### ⓪⑲長徳寺
大原町40

鎌倉時代に中興したとされる真言宗寺院。かつての本尊であった大日如来像は、子育て・乳授けの仏として信仰を集めていたが、空襲により焼失。**長徳寺阿弥陀如来立像**は、平泉の中尊寺に安置されていたとされ、平安後期の作と考えられる。

### ⓪⑳齋藤商店
(内部見学不可)
小豆沢2-16

齋藤商店は、原木商として明治22年(1889)に当地で創業。建物は、昭和8年の中山道（現国道17号線）拡張工事にともなって新築されたもの。建物自体は店舗と住居が一体となっている。当建造物は、郊外の独立住宅の趣を呈する近代和風建築で、近接する志村一里塚と一体化した町のランドマークとして親しまれている。

### ㉑志村一里塚
志村1-12・小豆沢2-16

中山道に設置された日本橋から数えて3里目（約12km）にある一里塚。明治18年（1885）に氏子から奉納された**若木稲荷神社【四季景耕図】絵馬**は、一年間の農作業の様子が描かれており、当時の農民の暮らしを窺わせる資料。境内には「稲荷越の木」と親しまれた**稲荷神社のムク**がある。

### ⓪㉑❶❷常楽院
前野町4-20

江戸初期には創建されていたという真言宗寺院。墓地には鎌倉時代の特徴を有する**常楽院年不詳阿彌陀三尊種子板碑**がある。戦前から戦後にかけての、前野町一帯の発掘調査によって発見された弥生時代後期の標準土器である前野野町式土器などは、当時の守山聚落住職によって収集されたもので、当寺は「土器寺」と呼ばれた。現在は、**常楽院土器収蔵庫収蔵品一括**として区有形文化財。またその一部は東京都有形文化財。江戸末期以降の**常楽院所蔵絵馬・扁額**には弘法大師伝説を描いたものなどがあり、当地の信仰を知るうえで貴重な資料。

### ⓪㉒❶前野町五丁目熊野神社
前野町5-35

通称は西熊野神社。江戸末期以降の**前野町五丁目熊野神社所蔵絵馬・扁額**は当地の信仰を知るうえで貴重なもの。

### ⓪㉒❷志村延命寺
志村1-21

志村城をめぐる攻防戦で我が子を失った見次権兵衛が、世の無常を悟り、自分の屋敷地を寺院としたという伝承がある真言宗寺院。境内には区内最古の建長4年（1252）の板碑を含む**志村延命寺板碑群**と、正保4年（1647）に造られた**志村延命寺の庚申薬師**がある。薬師を刻み、舟型光背を持つ希少な庚申塔で、いぼとりの「物譲師」としても親しまれていた。

### ㉓志村坂上富士大山道道標・庚申塔
志村2-7

旧中山道から中台を経由して練馬道（富士街道）へと上がる道の分岐点に建つ。**道標**は寛政4年（1792）の建立。**庚申塔**は万延元年（1860）に建てられ、練馬・柳沢・府中への道が刻まれている。富士・大山への参詣者が目印とした。

### ㉔大野幸雄家文書
(見学不可)
志村2

大野幸雄家は代々武兵衛を称し、志村（堀之内村）の名主や組頭、百姓代などの村役を務めた。大野幸雄家文書は、貞享2年（1685）の年貢割付状をはじめとして、明治期までの土地関係の文書が大半を占めている。また、改築を施しているが、敷地に長屋門が現存する。

### ㉕旧志村役場跡地
志村2-19　東京聴覚障害者支援センター

明治22年（1889）の町村制施行により志村が成立。村役場は当初延命寺内に置かれたが、同36年にお寺から役場の焼失にともない民家へ移転。さらに、大正2年（1913）に当地へ移転した。昭和7年（1932）10月の板橋区の成立まで志村の行政を担った。

### ⓪㉖志村熊野神社
志村2-16

長久3年（1042）に志村将監が紀州熊野神社の分霊を勧請したと伝えられる。志村社（旧志村）の総鎮守。また、神社を含めた一帯が志村城とされ、社殿の裏側には空堀が残る。境内の絵馬殿には**志村熊野神社所蔵絵馬・扁額 付寄進札**がある。これは江戸期から大正期にかけて作られたもので、とくに寛政7年（1795）の「伊勢太々神楽奉献絵馬」は不の時代性などから注目される。**熊野神社の樹林**は、武蔵野の面影を残す貴重な樹林である。

### ⓪㉖大善寺址石坂供養塔
小豆沢3-7

総泉寺は、建仁元年（1201）の開創で、昭和3年（1928）に現在地に移転した曹洞宗寺院。移転時に当所にあった大善寺を併合。室町期から江戸初期の作とされる**総泉寺薬師三尊像（秘）**は大善寺の本尊（見学不可）。門前にある寛保4年（1744）建立の**大善寺址石坂供養塔**は、清水薬師の効能と石坂の設置を記念したもの。

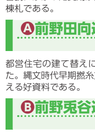
### ㉔薬師の泉跡
小豆沢3-7　区立薬師の泉庭園

昭和初期までは、当所に豊洞宗大善寺が建っていた。享保年間（1716-1735）に代将軍徳川吉宗が鷹狩をした際に当寺で休息し、境内から湧出する清水を賞して、本尊を「清水薬師」と命名したという。中山道の名所として旅人や文人が訪れた。現在は「江戸名所図会」の挿絵に基づき、史跡公園として整備されている。

### ㉗戸田橋親柱
小豆沢3-3　区立小豆沢公園

荒川の「中山道戸田の渡し」に昭和7年（1932）に架けられた三代目戸田橋の親柱。同53年に四代目の完成によりこれ任は解体されたが、その後同55年に、橋の両側の親柱を板橋区・戸田市がそれぞれ引取った。板橋区側の親柱は区立小豆沢公園へ移築、保存されている。

### ㉘龍福寺
小豆沢4-5・16



室町末期の創建と伝わる真言宗寺院。境内には台地の下に広がっていた七夕子崎という江戸から出現したという薬師如来を祀る。**龍福寺建長七年板碑（125）**をはじめ、**龍福寺所蔵板碑群**があり、「板碑の寺」としても知られる。その墓地を中心に、縄文時代後期から弥生時の貝塚である**小豆沢貝塚（秘）**が広がる。そこから出土する魚や動物の骨などが当時の生活の様子を窺い知ることができる。

### ㉙㉗若木稲荷神社
若木1-13

「トウカ渡し」と呼ばれた当所に、稲荷大明神が勝願したと伝えられる。明治18年（185）に氏子から奉納された**若木稲荷神社【四季景耕図】絵馬**は、一年間の農作業の様子が描かれており、当時の農民の暮らしを窺わせる資料。境内には「稲荷越の木」と親しまれた**稲荷神社のムク**がある。

### ⓪㉚中台馬場崎貝塚
若木3-4　区立若木三丁目貝塚公園

昭和42年（1967）の発掘調査にて縄文時代前期（約5,500年前）の貝塚が発見され、同55年の確認調査では縄文時代から平安時代までの遺構や遺物が発見された。現在は区立公園として、遺跡の保存と活用が図られている。

### ⓪㉚❶圓福寺
西台3-32

室町期に大田道灌によって川越で創建され、当地へ移転してきたという曹洞宗寺院。江戸期には将軍家から20石の寺領が与えられた。開基である太田道灌に所縁の**圓福寺明德二年雲版（秘）**や、中世文書を含む**圓福寺文書**は、江戸期から知られていた寺宝。**圓福寺太田道灌像**も貴重なものである。また、文明17年（1485）の**圓福寺月待画像板碑**は、当地が中世の宗教施設であったことを窺わせる資料。境内にある**圓福寺のユウヤマモリ**は、高野山より移植したものという。

### ⓪㉛❸京徳観音堂
西台3-53

江戸期には真言宗教徳寺の持堂であったが、明治5年（1872）に廃寺となり、現在は圓福寺が管理。境内には、**京徳観音堂の延文六年宝印塔（1361）**と、江戸期の旗本**井上正昭・井上正貞父子の墓**がある。江戸末期以降の**京徳観音堂所蔵絵馬・扁額**には、伊勢講に関するものなどがあり、当地の信仰を知るうえで貴重な資料。

### ⓪㉜西台天祖神社
西台2-6

創建年代は不明であるが、江戸時代には神明社と称し、西台村の鎮守社であった。西台村周辺の人々から寄進された、**西台天祖神社所蔵絵馬・扁額**には、大山講・伊勢講に関するものなどがあり、当地域での信仰を知る貴重な手がかりとなる。また、井戸掘りの様子を描いた絵馬は非常に珍しい図像である。

### ⓪㉜蓮華寺
蓮沼1-10

創建当初は荒川（入間川）河畔にあったが、川の氾濫によって、蓮沼地域の村落移転とともに現在地へと移転したとされる真言宗寺院。当寺の**蓮華寺客殿・厨視棲札**には、寺の再興にあたった多数の檀家の名前と、客殿と厨視の普請にかかった費用が記録されている。区内において年紀が判明する最古の棟札である。

### Ⓐ前野田向遺跡第2地点
前野町3-53

都営住宅の建て替えにともない、平成6年（1994）に発掘調査が実施された。縄文時代早期燃糸文系の土器は、時間的変遷や他地域との交流関係が窺える好資料である。

### Ⓑ前野兎谷遺跡※
前野町5-29

共同住宅建設にともない平成8年（1996）から同9年にかけて発掘調査が実施され、縄文時代から近世までの遺構や遺物が発見された。なかでも古墳時代前期の資料が充実する。昭和15年（1940）に「前野町式土器」を設定した了遺跡の一つである。

# 赤塚 地区

### Ⓒ中台皇中遺跡
中台2-43

社員寮建設にともない昭和63年（1988）から平成元年にかけて発掘調査が実施され、旧石器時代から平安時代までの遺構・遺物が多数発見された。なかでも平安時代の鉄製の馬具や鉄鏃（やじり）などは、武士の発生を考えるうえで重要な遺物である。

### Ⓓ西台遺跡
西台2-7　区立西台福寿公園

昭和28年（1953）と同50年に発掘調査が実施され、弥生時代後期と古墳時代前期の住居跡等が発見された。前者の調査では、東海地方東部の弥生後期の菊川式系土器の壺形土器が出土しており、当時の地域間交流や社会情勢を知るうえで貴重な資料である。調査地点は現在の区立西台福寿公園である。

### Ⓔ西台後藤田遺跡※
西台1-15～21

都営住宅建て替えにともない平成7年（1995）から同9年にかけて発掘調査が実施され、旧石器時代から古墳時代の遺構や遺物が多数発見された。なかでも旧石器時代は武蔵野台地最古級（約3万年前）の文化層が確認されたとともに、遺物が非常に充実している。旧石器時代遺構は平成20年度に区指定有形文化財になっている。

### ㉝❸徳丸北野神社
徳丸6-34

徳丸木村・脇村の鎮守。長徳元年（995）に京都北野神社の分霊を勧請したと伝わる。その際に村人が田夫の翁を演じ奉ったのが、毎年2月11日夜に執行されている**徳丸北野神社田遊び**（国重要無形民俗文化財）の起源とされる。江戸末期から昭和期にかけて奉納された**徳丸北野神社絵馬・扁額一式**は、徳丸地域の歴史や信仰を知ることができる貴重な資料である。毎年5月5日には、**徳丸北野神社獅子舞と徳丸四つ竹踊り**が奉納される。**梅樹堂師匠大野時長の碑**は明治5年(1872)、徳丸北野神社に天保期から明治初年にかけて置かれた寺子屋「梅樹堂」の師匠、大野時長を顕彰した石碑。時長は同石の宮司。梅樹堂で学んだ徳丸・下赤塚・西台、下練馬などの81名の子弟の名が刻まれる。確定には「幾渡華…」とあり、筆子塚の性格を持つ。

### ⓯郷土芸能伝承館
徳丸6-29

区内に伝わる田遊びをはじめとする貴重な民俗芸能を伝承し、文化遺産として後世に伝えることを目的に平成元年に建設された文化施設。区内に伝わる無形民俗文化財に登録・指定された保存会を中心に練習が行われている。そこで使われる**徳丸北野神社田遊び用具・徳丸北野神社獅子舞用具・赤塚諏訪神社獅子舞用具**を収蔵

### ㉞⓫粕谷家住宅
(工事のため公開休止中)
徳丸7-11

当家は、徳丸脇村名主粕谷家から隠居し始まるとされる。享保8年（1723）に建築された寄棟造りの置棟の建物で、現在も建築当初の位置にある。平成29年度東京都指定有形文化財。当家に伝わっていた**粕谷尹久子家文書 付和谷貞夫家文書**は、徳丸脇村の歴史や信仰を知ることができる貴重な史料（郷土資料館管理）。

### ㉟紅梅小学校
(見学不可)
徳丸8-10

明治7年（1874）に、区内で最古に開校した紅梅学校を源源とし、同22年に安楽寺から現在地へと移転した。**紅梅小学校校史資料**は、同9年の「紅梅小学校史料編」の彌冊をはじめとして、主に明治期から昭和期にかけての書類・日誌や寄贈資料などからなる。教育史や地域史を研究するうえで貴重な資料となっている。

### ㊱田口恒次家文書
(見学不可)
徳丸5

当家は代々善兵衛を称し、徳丸木村の年寄などの村役を務めた。田口恒次家文書の特徴は、当家が講元を務めた出羽三山講に関連する文書と、寺社札が史料の大半を数えることにあり、江戸・東京の民間信仰の有り様を明らかとするうえで貴重な史料となっている。

### ㊲安井家文書
(見学不可)
徳丸5

当家は江戸期を通じて徳丸木村の名主を世襲した。安井家文書は、慶長3年（1598）の徳丸村検地帳をはじめ、近世から近現代に及ぶ、区内で最もまとまった文書群で9,000点を数える。江戸期の文書のほとんどは、名主文書（村の公文書）である。江戸・東京の近郊農村の歴史を研究するうえで極めて貴重な史料。一部は郷土資料館が管理している。都指定有形文化財。

### ㊳安井芳一家文書
(見学不可)
徳丸5

安井芳一家は、江戸時代に徳丸木村の組頭や年寄を、明治期には戸長や赤塚村役場収入役などを務めた。当家の史料には、万治元年（1658）の金子証文、延宝2年（1674）の検地帳や天保・慶応期の聞帳御縄間違ろなど、近代は戸長役場業務関係、戸籍謄・三峯講に関する史料や、徳丸字別地番図、徳丸木村地価帳などがある。

### ㊴田中義一家文書
(見学不可)
徳丸5

**田中義一家文書**は、明治時代から大正時代のものが中心で、当家の家政などに関するもの、出羽三山徳丸講・富士講など信仰に関するもの、選挙に関するものに分類される。特に当家が出羽三山徳丸講の副講元を務めていたことで、祈願文や祝詞などが伝わっている。

### ㊷四葉稲荷神社
四葉2-9

当社は、以前に元亀3年（1572）の創建とする棟札があったとされる。江戸時代には四葉村の鎮守社であった。境内西側には、赤塚氷川神社本殿御遷座に同じく、赤塚一山講によって造られた**四葉稲荷神社木曽御獅子**がある。

### ⓪㊵増福寺
赤塚7-14

寛永8年（1631）に松月院住職によって開かれた曹洞宗寺院。境内には江戸後期に十方庵敬順が著した「遊歴雑記」にも紹介された、「南無阿弥陀仏」が刻まれている**増福寺年不詳名号板碑**がある。その形状などの特徴から14世紀後半の作製と推定される。

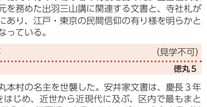
### ㊶㊷㊸㊹赤塚諏訪神社
大門11

戦国期に赤塚郷を領有した千葉目胤が、長禄年間（15世紀後半）に信州諏訪

明治7年（1874）に、区内で最古に開校した紅梅学校を源源とし、同22年に安楽寺から現在地へと移転した。**紅梅小学校校史資料**は、同9年の「紅梅小学校史料編」の彌冊をはじめとして、主に明治期から昭和期にかけての書類・日誌や寄贈資料などからなる。教育史や地域史を研究するうえで貴重な資料となっている。

### ㊷㊸㊹松月院
赤塚8-4

延徳4年（1492）に千葉目嵩が寺領を寄進し、中興したという武蔵千葉氏所縁の曹洞宗寺院。墓地内には、**伝千葉一族の墓地**や鎌倉期の僧了雲らの墓がある。徳川家康より40石の寺領が与えられ、歴代の将軍が出た**徳川将軍朱印状**が残る。江戸末期に徳丸原で西洋式の調練を行い、当寺を本陣とした高島秋帆を顕彰する**火技中興洋兵開祖高島秋帆記功碑**が、大正11年（1922）境内に建てられた。門前の樹伐徒会組織による、**旧赤塚村役場跡地 付赤塚村自治記念碑（秘）**がある。明治22年（1889）の町村制施行によって赤塚村が成立し、その村役場は昭和7年（1932）10月の板橋区の成立まで松月院に置かれた。当碑はその際に、これまでの赤塚村の事跡を記録するために建立された。境内には**松月院のヒイラギ**もある。



### ㊸㊹松月院大堂
赤塚6-40

南北朝期には七堂伽藍をそなえた